

“DAS-JAPAN NEWS”も創刊以来50号となりました。年4回程度発行していますから、もう12年半が経過したことになります。NEWSはISOに関する内容がほとんどですが、時には世相の出来事も記事にすることが多々あります。というのは、ISOは時代の流れに沿ってその内容が見直され、常に時代を反映した仕組みを構築・運用することが求められているからです。

1. 統合マネジメントシステムの時代！

弊機関に登録されている組織の60%ほどが複数の国際規格を保有しています。当初から複数の国際規格を構築して申請してくる組織もあれば、当初ISO9001だけだったのが、その後環境のISO14001や情報セキュリティのISO27001などを追加した組織もあります。その理由は、世の中が環境問題に敏感になり組織としてそれらの意識を高めるためとか、通常の業務で顧客からの機密情報を扱う場合が多く、そのためにはISMSが必要になったとか、また仕事柄危険な作業が伴う場合があり、労働災害を防ぐ意味でもISO45001は必要不可欠で導入に踏み切ったところもあります。

2. 国際規格の目的はさまざま！

今までたくさんの国際規格が発行されていますが、各々の国際規格はそれなりの目的があります。例えばISO9001であれば、「顧客満足を達成し顧客からの信頼を得て事業の発展につなげる」またISO14001では、「環境負荷を低減することにより地球環境の保護に貢献する」などが規格の目的とされています。さらにISO27001では、現代のビジネスではさまざまな情報を扱うケースが多く、中でも他人に知られたくない情報は極めて資産価値が高く、もしそれらの情報が外部に漏洩したら大問題になる危険性をはらんでいます。

3. 製品品質だけではない！

一昔前ののんびりした時代には、「製品やサービスの品質第一」を掲げ取り組んできた組織が大半でした。ところが昨今はどうでしょう？確かに製品の品質はよさそうだけど、もう少しコンパクトで扱いやすいものが欲しい。あるいは部品がリサイクルしやすいものだったらなど、メーカーは品質以外のさまざまな要素も、製品開発時に同時に考えなければなりません。

つまり一つの国際規格の運用だけでは、現代の世の中には通用しない時代が到来したのです。

4. 統合マネジメントシステム導入の意義！

例えばあるメーカーを考えた場合、顧客に提供する「製品の品質」はもちろんのこと、資材の購入や生産設備に必要な、電気、ガス、エア、水などのユーティリティがもたらす環境問題の考慮は必要不可欠です。つまり、工場稼働することにより莫大な環境負荷が生じていて、製品の品質確保と同時に、それらの負荷低減活動も避けて通れないはずです。

さてそれらを同時に実現するためには、ISO9001に加え環境負荷低減を目的とするISO14001が必要となってきます。一方長年業界で得た貴重な知識やノウハウは、安易に社外に流出してしまったら大損害に見舞われることも考えられます。さらに顧客から預かった貴重な資料や図面などもずさんな扱いは許されなければなりません。つまり貴重なマル秘情報の流出をいかに防ぐかにはISO27001が必要となります。ところでこれらの問題点をひとつの国際規格でカバーできればよいのですが、現状の国際規格の各々は固有の目的しか保有しておらず、全体をカバーできていません。

5. 統合マネジメントシステム構築は？

ベースとなる国際規格は ISO9001 です。すなわち現状のさまざまな国際規格は、すべて ISO9001 の要求事項が原点となっています。そしてその構成は、P（計画）－D（実行）－C（見直し）－A（改善）のマネジメントサイクルで、4.1「組織その状況の理解」～10.3「継続的改善」からなる多くの要求事項があります。しかし要求事項は同じだとしても、前述のように各々の国際規格は目的が異なりますから、「品質」「環境」「情報セキュリティ」の面から、システムを構築することになります。ただし「組織の役割・責任」「文書化した情報」「内部監査」「マネジメントレビュー」などは目的は違えども、仕組みとしてはほぼ同じになるかと思えます。

統合マネジメントシステムの構築で一番効果的なやり方は、「共通」と「規格特有」とを区分し、各要求事項に沿って日常の業務をベースに自社なりの仕組みを構築すればよいのです。70%ほどが規格共通の要求事項なので、あまり難しく考えることはありません。

いずれにしても統合マネジメントシステムで重要なことは、目の前の業務について「品質」「環境」「情報セキュリティ」などの側面から、同時に考える習慣をつけることです。

6 統合システム審査工数！

統合マネジメントシステム審査工数については、2規格では1+1=2ではなく、1.5程度、3規格では1+1+1=3ではなく、2前後を考えればよいと思えます。

< D A S ジャパンから >

1. ISO 認証書の有効期限切れ！

ISO 審査は、3年ごとの更新審査に合格すると、認証有効期限が3年先の日付に更新される仕組みです。その有効期限が過ぎると認証書は紙きれ同然の無効となってしまいます。その「有効期限切れ」を防ぐために、有効期限の2か月前までに受審するよう「更新審査日案内」を各組織に送付しています。しかしながら有効期限日直前に更新審査を受審する組織がまれにありますが、英国本部から新しく発行される認証書が届くまで有効期限の空白期間が生じてしまい、入札などに認証書が活用できない場合が発生します。その空白期間が生じないよう、入札その他で ISO 認証書が必要不可欠な場合は、早めの受審をお願いいたします。

2. ISO 権威のつぶやき！

DAS ジャパン HP の上部に「ISO 権威のつぶやき」があります。そこをクリックいただくと弊機関代表の萩原による現代の世相に関するエッセイが執筆・掲載されています。

「プーチンの大罪」「100万円の文書通信交通費」「ローカル線の廃線」「行政の事務処理」「縦割り行政の弊害」など、現代の世相の動きがわかりやすく解説されています。どうぞ一読なさってください。すでに読者から「まったく同感」などのメッセージが寄せられています。

(編集責任者 萩原由利)



英国系 ISO 認証機関 DAS ジャパン(株)

代表取締役 萩原睦幸

東京都豊島区東池袋 3-20-16-503

info@das-japan.jp

<http://www.das-japan.jp>